

地域工務店に「住宅産業塾」が説く

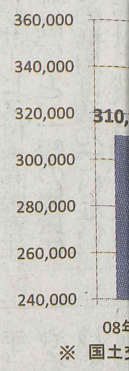
健康快適住宅とは

なぜ建設現場をきれいにしなければならぬのか。住宅産業塾長の長井克之氏は「心を込めて現場をきれいにすることで住宅の品質も作業の安全性もぐっと良くなる」とためという。そうした本質的な「現場きれい」運動が実践されることは、そこに住む施主にとっても喜ばしい。

健康を損ねるといふ、ショックな事実と遭遇した。それが契機となって、長井氏は「病気になる家」と「元気になる家」の意味と因果関係を徹底的に研究した。試行錯誤を重ねながら、分析結果を、実際の家づくりに取り入れ、更に顧客の反応を把握するこ

◎元気になる家の意味

「健康快適住宅」は、実はそうした住宅産業塾の運動の中から生まれた。「どこよりも『品質』や『きれいさ』に気を使った家づくりをしてきたつもりだったが、住む人が



か、8%から19%と、2%のアップなので多少の駆け込みは発生するだ

足が相当落ち込んでいるためだ。昨年は、所得が向上かず、価格が高止まりしたまま完成後6カ月が完売の目安だったが、現在では、増税後のマンション市況は1層在は1年に延び、販売スピードが落ち込



千葉県内で体験宿泊モデルハウスとして使っていた住宅。体験宿泊期間が終わるのを待って、気に入った人が自宅として購入した

実際に実行するた「健康快適住宅基準」であり、住宅会社を育成する教材が「健康快適住宅教本」というわけだ。教本では設計内容に多くを割いている。なぜなら「今までの住宅会社の設計士は建築基準法と社内基準は守るよう勉強しているが、健康快適住宅のことはほとんど勉強していない」ためだ。そこで環境改善推進協議会では「2日間の教育を行った上で、現実の設計での図面・内容調査を実施。合格した人だけに、『健康快適住宅プランナー』の資格を与えて普

手順踏んだ上で「適合」認定

とを繰り返してきた。その結果、病気になる原因は①温熱環境が悪い、②使用している建築資材が悪い、③空気環境が悪く、酸化ストレス空間になっている、④設計が悪い(敷地環境や周辺環境、光の道・風の道などを反映しない、家族のふれあいを重視しない不具合な設計)の4つであると確信した。きちんと対応すれば健康が悪くなる

ことはない。逆に健康を阻害することがない住宅とは、それとは真逆の関係になる。具体的には、①温熱環境を良くする(当然換気も良く)、②適正材料を使う(自然素材など活用できるものは積極的に)、③酸化化技術を使用する(VOCや電磁波、ハウスダストなどを作るものを除去する)、④健康快適設計を行う——ことだ。この4つを確

◎実測データ提出も

その「完全版」の体験宿泊モデルハウスが愛知県江南市内にある。それ以前に78組が宿泊した後、希望者に売却し

資格基礎人停調ADR
競売不動産
取扱主任者
2018年度(第8回) 12月9日